

# 一泉

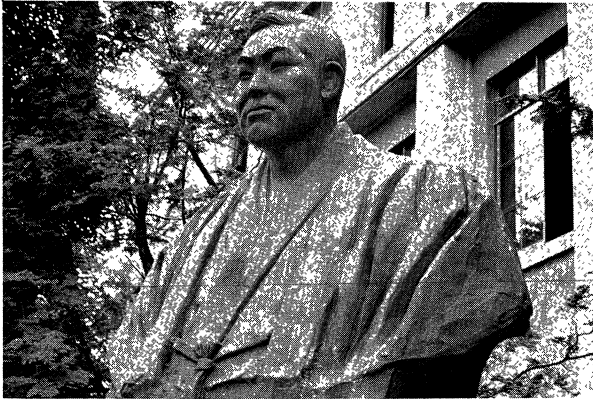
発行所  
〒921 金沢市泉野出町  
3丁目10-10  
金沢泉丘高等学校内  
一泉同窓会  
電話(0762)42-0211  
定価 1部 150円  
(株) 橋本 清文 堂

## 泉丘校蔵書解題目録の編集を終えて(II)

### 久田 督 先生

山 森 青 硯

(一中三十三回卒)



先生は安政五年十月二十二日金沢の彦三八番町に生れ、幼時味噌蔵町の石坂某土子坂の友田某に就き又明倫堂に入りて漢文書を学び、玄蕃家中の吉田某に就きて瀧本流の書を習ひ御歩町の中野某に就きて珠算を学ばれたり。

八歳の頃より加藤といへる人に就きて機流の鎗術を、古田清蔵に就きて剣術及居合を、石丸某に就きて柔術を学ばれたり。明治二年壮猶館に入塾して英語及筆算を学ばれ、同三年七尾に新設せられたる語学校に赴き、英人オスボンに就きて英語を学ばれ、同五年頃巽巳学校に入り初めて訳読を学ばれたり。それより明治七年十月長崎に至り、

官立外国語学校(広運学校)に入学し、アーノルド、ボンネル両氏に就きて英語及数学を修め居ること一ケ年にして東京外国語学校に転校し、下等三級に編入せられ、ポートに就かれしが、四五日にして学年試験あり二級に進み、ペーベルに就かれしが又一週間余にして、撰抜試験の結果一級に進み、ウワイラルに就かれり。同年下等語学科を卒業し高等語学科に進みスマット氏に就きて一ケ年余勉学の後明治九年開成学校の入学試験を受けて入学せられたり。同十一年八月予科を卒へて本科に進み化学科を修められ、十四年大学化学科を卒業して理学博士の学位を受けられたり。

生はかくては到底師弟間の愛情を發し教育の好果を得難しと思考せられしかば、日曜毎に数十名の生徒を私宅に呼寄せ、種々の遊戯をなすなど色々苦心の末漸く師と親み、之を畏敬せず尊敬するに至らしめられたり。明治十七年の頃新潟県会は中学初等科を廃し高等科のみを存すべき決議をなせり、然れども県下には入学の準備をなすべき一の私立学校なければ高等科に入学し得る者は皆無たる有様なりき。又当時徴兵令改正の結果師範部の募集に應ずるもの俄に増加し、三四百名にも及びたるが、之亦其学力非常に乏しく入学試験に及第するもの僅十数名に過ぎざりき。斯くの如き状態なりしかば之が救済の方法を講ずべき必要眼前に迫れり。是れに於いて先生は名望家に私学校設立のことを勧められたれど應ずるものなかりしかば自ら進んで中学及師範へ入学希望者の為、一の予備校を石塚某の名もて設立せられたり。かくて生徒を募集せらる、や忽ち五百名以上の応募者を得られたり。(該校の修業年限は一ケ年にして其間生徒の性質操行学業等詳細を監督し教員として不適当なる者は諭示して退学せしめ、又中学校希望者に対しても其前途に就きて種々注意を与へられしに甚だ良好なる結果を得ら

当時敵君の陶器窯元業失敗に遭遇せられ、三千余円の負債を引受くるの止むなきに至り、為に農商務省等の如き将来有望なる地位ありたるも之を排し有望ならざるも比較的高き俸給を得べき学校に従事せらる、こととなり新潟学校に赴任せられ、九ケ年間其職に居られたり。

初めて此学校に教職に従事せられし際或日二三の生徒先生の宅を訪ひしに、次室に低頭平伏する状、恰も旧大名に対する臣下の如きものあり。先生大いに驚き種々親しく話掛けらる、も、彼等は益々平伏し仰いで顔

れたり。就中師範学校の如きは善良にして良師たるべき生徒を得、校風を一変するに至れりといふ。此事実よりして先生は利益を眼中に置かず公益の為殊に必要上設立したる私立学校の有効なることを充分確められたり。明治十九年師範学校令改正と共に該校を廃せられ校舍校具書籍等は悉皆、或る熱心なる教育者に將來学校として保存する条件にて譲与せられたり。明治二十二年五月より二十九年未まで八ヶ年間は福井中学校に在勤せられたり。その間も亦種々力を教育に用いられしが、牧野伸顕氏同県知事たりしとき幾多の困難を排し寄宿舎を新築せられたり。

明治二十九年難校として有名な三重県尋常中学校長に転任せられたり。先づ種々取調べられし結果校規

の紊乱せるに一驚を喫せられ校規則新に力を用い鋭意改善の実を上ぐる事に力を用いられたり。さればさしも乱れたる該校も漸次復活の氣運に向ひたり。かくて一ヶ年を経たると石川県勸業課長安原時太郎氏來重し、石川県の工業学校長となりて尽力せられたき旨相談せり。先生は「石川県は我故郷なり両親も久しく共に他郷にありたるを以て故郷慕しと見へ、大に我転任を希望せり。然れども僅か一ヶ年にして該校を去るは忍び難き事状もあり」とて一応謝絶せられしも種々事情を陳述して転任承諾を迫りたり。

その中文部省より三重県知事に電報を以て交渉あり、遂に転任せらるることとなりたり。先生の後任を撰定し生徒に告別せらるゝに当り全校

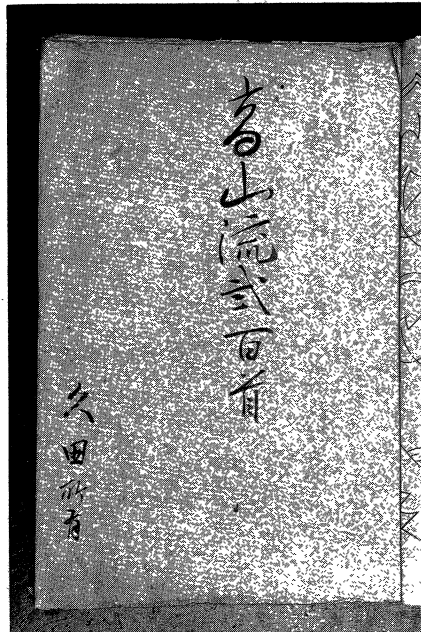
の生徒先生に贈るに銀盃三組を以てせしに先生曰く「是迄当校長として数年間尽瘁せる者には辭職勧告を以て之を送り、僅か一個年に満たずして去らんとする余に對して銀盃を贈るは甚だ理由なきが如し。余も数年間当校に在職せば或は他の校長と同様辭職勧告を受くるに至らざるや保し難し。故に諸子の志は深く感謝する処なれども此の記念品は領取し難し」と。然るに生徒は將來決して不都合の挙動を為さず謹慎以て勉勵し、充分生徒たる本分を尽すべしと誓ひ、其の誓の記念として領取せられ度き旨懇願せしかば、先生も喜んで領取せられたり。

館長を置かれ、先生は館長兼務を命ぜられたり。〔依つて先生は陳列品を整理し、古博物館を廢して売店を設けられたり。当時金沢には勸工場如きもの更になく、漆器の如きは新製品を購するに古物商の手を経ざる可からざる有様にして、当県の物産を他県人及外国人に紹介する必要を感じられたればなり。〕

斯くの如くにして明治三十年の末、石川県工業学校に赴任せられ來りて其の實際を見らるゝに、全国最古の工業学校なるにも拘はらず、公園一隅なる校舍は狭少不潔諸事不整頓を極め設備の不完全なる授業法の整はざるものありき。されば直に製品を整理し、授業法を改良し、比較的必要な彫刻科及女子手芸科を廢し、絵画科は図案に重きを置き、將來設置すべき科として金工科を挙げ、窯業科の如きは地質改良に専ら力を用いられ着々その功を奏したり。當時勸業博物館及公園の改良につき意見を知事に陳述せしに直に採用せらるゝ所となり、公園委員を設け博物

館内に売店設置せらるゝや数月ならずして、市内に四五の勸工場設置を見るに至れり。〔先生工業学校へ赴任せられしより校舍新築の急務なるを認め、或は知事に迫り、或は県會議員に説き、百方之を勧められたるも種々の事情ありて、容易に遂行し得べくも見へざりき。三十一年県會開會に當り、時の知事志波三九郎氏は議員多数を伴ひ学校を參觀せしかば、先生は丁寧に之を案内し詳細に説明して、校舍新築の急務たることを陳述せられたり。されば議員諸氏もその必要なるを感じしか、数日ならずして常置員某々等三名來校して左の如く語れり。〕

「貴説の如く当校の新築は急務なりと認む。立派なる製品も出來諸事大いに改良せられしを見て満足せり。然れども前知事が貴校の子算につき原案の執行を取てせしことあり、議員諸氏は大いに感情を



久田所存

